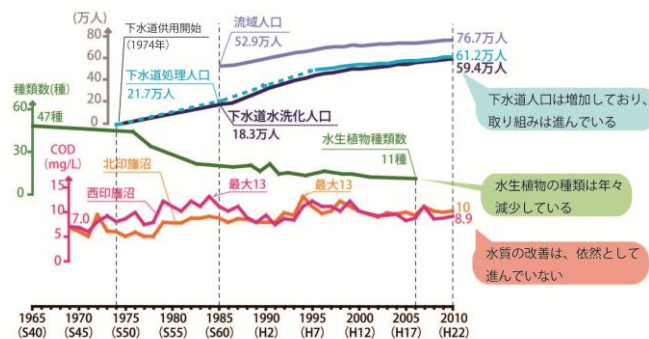


2.2 事業の背景（印旛沼の水環境変化）

- 印旛沼流域では昭和40年代以降、人口増加、市街地の発展に伴う汚濁負荷の増加により、水質が悪化し、度々アオコが発生。
- 近年水質が全国でワースト1となるなど、決して良好な状態であると言えないことから、「恵みの沼」を再生し、次世代に継承することが必要
- これまで、様々な対策を進めてきたことによって、負荷量は昭和40年代のレベルまで減少しているが、水質（COD）は当時の水質と比べ、依然として高く水準（10mg/L 前後）で推移



8

2.3 評価対象事業の概要(1)

- 印旛沼の水質を改善し、豊かで美しい自然環境を守り、次世代に残すために、統合河川環境整備事業として、植生帯造成、底泥浚渫、浄化施設整備を計画している。

《事業概要》

項目	内容
事業名称	統合河川環境整備事業
事業採択	平成15年度
事業期間	平成16年度～平成42年度
事業内容	植生帯造成（L=12.1km） 底泥浚渫（67万m ³ ） 河川浄化施設整備（1箇所）
総事業費	150億円

9

2.3 評価対象事業の概要(2) ～植生帯造成～

- かつて、印旛沼に様々な水草の群落が広く分布し、良好な水質の維持に寄与するとともに、多様な生態系の基盤となっていた。
- 湖岸に植生帯を造成し、水生植物再生の基盤を整備する。



植生帯造成

内容	○印旛沼の湖岸に植生帯を造成 ○かつて生育していた水生植物を再生
効果	○水生植物による水質改善 ○植物群落による生物生息環境の向上
規模	整備済み：1.5km 全体計画：12.1km



植生帯整備状況



再生した水生植物群落

10

2.3 評価対象事業の概要(3) ～植生帯造成～

植生帯造成による水生植物群落の再生

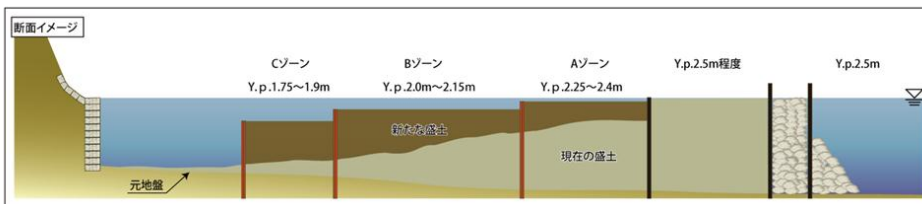
H21/8/21 全景



ササバモ群落 8/15



コウガイモ群落 8/15



11

2.3 評価対象事業の概要(4) ～植生帯造成～

かつて印旛沼に生育し現在は消失した水草の再生に成功



ハダシシャジクモ
(絶滅危惧I類)



エリナガシャジクモ



オトメフラスコモ
(絶滅危惧I類)



フラスコモsp.

12

2.3 評価対象事業の概要(5) ～植生帯造成～

植生帯市民見学会(千葉県立博物館と共同開催)



13

2.3 評価対象事業の概要(6) ～浚渫,浄化施設～

《浚渫》

➤印旛沼の水質汚濁の1要因となっている底泥浮泥を除去することにより、汚濁負荷量の削減に寄与

《浄化施設》

➤印旛沼に流入する汚濁負荷の高い河川・水路に浄化施設を整備

浚渫

内容	○水質汚濁の原因となる沼底浮泥の除去 ○植生帯造成土の確保
効果	○水質悪化の防止・低減
規模	浚渫済み：7.2 万 m ³ 全体計画：67.0 万 m ³

浄化施設整備

内容	○汚濁した河川・水路に水質浄化施設を整備
効果	○汚濁した河川の水質改善 ○印旛沼に流入する汚れの削減
規模	全体計画：1 箇所（今後検討）



浚渫の様子

14

2.4 事業によって期待される効果

- 印旛沼の水質の維持・改善
- 水質の改善により、景観・親水性が向上
- 水辺植生の増加、景観の向上
- バードウォッチングや環境学習など水辺で動植物を楽しむ機会の増加

取り組み前

⇒取り組みを行わない場合

- ・印旛沼の水質が現在より悪化する可能性があります。
- ・アオコの発生や水の臭い・濁りが改善せず、水辺の景観が損なわれる恐れがあります。
- ・動植物の生息環境が損なわれ、水辺で動植物を楽しむ機会が減少します。



取り組み後

⇒取り組みを行った場合

- ・印旛沼の水質の維持・改善が期待されます。
- ・水質の改善により、景観や親水性が向上します。
- ・水辺に植生が増え、景観がよくなります。
- ・バードウォッチングや環境学習など、水辺で動植物を楽しむ機会が増えます。



15